

令和8年度（2026年度）

京都市立芸術大学 音楽学部

# 入学試験問題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



# 目 次

## 第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	7
ピアノ専攻	9
弦楽専攻	10
管・打楽専攻	13
声楽専攻	16
音楽学専攻	17

## 第二次試験（作曲、指揮、弦楽、管・打楽、声楽専攻）

音楽通論	22
聴音書取（旋律聴音）	30
聴音書取（和声聴音）	30
新曲視唱	31
コールユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	31
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	32
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	33

※副科ピアノ演奏は事前の動画提出による映像審査

## 第二次試験（音楽学専攻）

口頭試問	35
------	----

令和8年度(2026年度)

音楽学部入学試験 第一次試験(音楽学専攻以外の専攻)

作曲専攻

(第1日) 1. 和声法(試験時間各2時間30分)

A バス課題:与えられたバスに和声をつけ、4声体とすること。

B ソプラノ課題:与えられたソプラノに和声をつけ、4声体とすること。

両課題とも記譜は次のaまたはbのいずれかを選択すること。

a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施記譜例(a、bによる記譜)は別記のとおり。

2. 作品提出

自作品を1曲以上、試験当日に提出すること。なお、提出された作品は返却しないので、コピー譜を提出すること。

(第2日) 3. 二声対位法(試験時間2時間)

与えられた全音符の定旋律に対旋律をつくること。対旋律は、2分音符、4分音符、8分音符と移勢(シンコペーション)を含む、いわゆる自由(華麗)対旋律によるものとする。

解答は、次の(1)~(6)の6通りが必要である。

(1):定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。

(2):定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。

(3):定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。

(4):定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。

(5):定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。

(6):定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は次のaまたはbのいずれかを選択すること。

a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施例(bによる記譜)は別記のとおり。

4. 作曲(試験時間4時間30分)

与えられた素材により器楽曲を作曲すること。

(第3日) 5. 面接

各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻(第1日)和声法の実施例

\*課題{過去の出題(ソプラノ課題)より冒頭2小節}



第一次試験

\*記譜 a による実施例

Andante (♩=72ca.)

\*記譜 b による実施例

Andante (♩=72 ca.)

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

\*記譜 b による実施例

定旋律

実施例

1

2

3

4

5

6

令和8年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（バス課題）

■ 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、a. またはb. のいずれかを選択する。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Moderato con melancolia (♩ = 88)



7



13



(試験時間 2時間30分)

令和8年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（ソプラノ課題）

- 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。  
記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。  
a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。  
b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Moderato (♩ = 72)

5

9

13

(試験時間 2時間30分)

# 第一次試験

令和8年度  
京都市立芸術大学音楽学部入学試験  
作曲専攻・第二日:対位法

■ 次の全音符の定旋律に、対位法を一つ作り、二声体としなさい。

対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢(シンコペーション)を含む、いわゆる自由(華麗)対位法によるものとする。

解答は、次の 1-6 の 6 通りが必要である。

- 1: 定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2: 定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3: 定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4: 定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5: 定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6: 定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は次の a. または b. のいずれかを選択すること。

- a. ト音記号とヘ音記号の大譜表による。
- b. ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

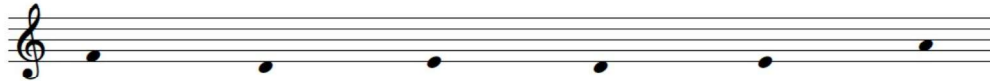


(試験時間 2 時間)

## 第一次試験

令和8年度  
京都市立芸術大学音楽学部入学試験  
作曲専攻・第二日:作曲

■次の素材により、二人以上の奏者のための器楽曲を作曲しなさい。



リズムは任意とし、調性(無調も可)、拍子、テンポ、音域も自由とする。どの音域で使用してもよい。また、各音に臨時記号を自由につけてもよい。同音反復も可とする。

編成については以下より二つ以上を選択するものとする。  
同一楽器を用いてもよい。

- ・フルート
- ・オーボエ
- ・クラリネット
- ・ファゴット
- ・ホルン
- ・トランペット
- ・トロンボーン
- ・ヴァイオリン
- ・ヴィオラ
- ・チェロ
- ・コントラバス
- ・ピアノ

楽器編成には打楽器を含めることも可能である。

移調楽器に関しては、実音表記で書いてもかまわないが、  
その際には、楽譜の冒頭にその旨を記載すること。

(試験時間:4 時間30分)

**指揮専攻**

・和声法（試験時間 3 時間）

与えられたバスとソプラノの旋律に和声をつけ、4 声体とすること。

（記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。）

・実技試験

1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。（演奏は二台ピアノによる）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲 第 1 番 ハ長調 作品 21 より第 1 楽章、第 4 楽章

（イ）P. I. Tchaikovsky：弦楽のためのセレナーデ 作品 48 より第 2 楽章 ワルツ

上記、出版社は自由とする。

2 下記の楽曲による総譜視奏（スコアリーダーディング）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲 第 7 番 イ長調 作品 92 より第 2 楽章

（イ）初見視奏（当日提示する管弦楽曲）

3 既に習得している楽器（ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちいずれか 1 つ）若しくは声楽を演奏すること。その場合、楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は、本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。マリimbaについては、本学で用意する楽器を使用すること。

なお、声楽を除きすべて無伴奏とし、演奏曲目をインターネット出願登録時に入力すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。

※声楽選択者の伴奏用楽譜について

声楽を選択する場合、伴奏用楽譜を出願の際 1 曲につき 2 部ずつ提出すること。

・ 1 ページの大きさは A4 判とし、各ページが全開するよう横一連に綴じること。

・ 表紙には曲名、調、氏名を明記すること。（表紙の右上部分には何も書かないこと。）

・ 印刷した Web 入学志願票等の必要書類とともに封筒に入れ、出願期限までに「**簡易書留・速達**」で郵送すること。

4 面接を行う。

令和8年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

指揮専攻：和声法

- 次のバス、およびソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。  
記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3 時間)

Choral (♩ = 84)

6

Moderato (♩ = 84)

6

**ピアノ専攻**

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 任意の作曲家による練習曲を2曲選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する1曲を決定する。

3 J. Haydn または W. A. Mozart または L. v. Beethoven の任意のソナタ1曲全楽章を選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する(1つの、あるいは複数の)楽章を決定する。

- ※注意**
- (1) いずれも暗譜演奏すること。
  - (2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。
  - (3) 拡張奏法や内部奏法を含む作品及び自作曲は除く。楽譜の入手が困難な作品については楽譜の提出を求める場合がある。
  - (4) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名をインターネット出願登録時に入力すること。
  - (5) 1について、7分以上12分程度までとする。
  - (6) 1について、変奏曲の抜粋は認めない。
  - (7) 2について、同じ作曲家による2曲を選択することも、異なる作曲家による2曲を選択することも可とする。
  - (8) 時間の都合上カットすることがある。

**弦楽専攻**

下記の課題を演奏すること。

- ※注意 (1) 選択した曲目及び調名をインターネット出願登録時に入力すること。  
(2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)  
(3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。  
(4) 時間の都合上カットすることがある。

**\*ヴァイオリン**

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただし Lalo のスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch : 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák : 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo : スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn : 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini : 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns : 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius : 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky : 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps : 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps : 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawski : 協奏曲 第1番 嬰へ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawski : 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch : Scale System より No.5、6、7、8、9、10 ただし No.6~No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8、9、10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符=80以上、No.6~10 は8分音符=60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode : 24Caprices

J. Dont : Étüden und Capricen 作品35

N. Paganini : 24Caprices 作品1 (ただし17番冒頭及び24番の繰り返しはすること。)

## 第一次試験

### \*ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz : 協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章 (ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。)

A. Hoffmeister : 協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章 (ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。)

M. Reger : Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

(第2日) 1 C. Flesch : Scale System より No.5、6、7、8

ただし No.6、7、8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8 は8分音符単位(16分音符2個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli : 41 Caprices 作品22 より任意の1曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

### \*チェロ

(第1日) 任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章を演奏すること。

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot 版) を参照のうえ、下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは1弓8音  $\text{♩} = 80$  以上)

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階 (スラーは1弓8音  $\text{♩} = 80$  以上)

ハ短調の例

Do mineur  
C moll  
C minor

(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは1弓6音  $\text{♩} = 60$  以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階 (スラーは自由  $\text{♩} = 60$  以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階 (スラーは自由  $\text{♩} = 60$  以上)

(f) 2オクターヴにわたる重音8度の音階 (スラーは自由  $\text{♩} = 60$  以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J. Duport : Etudes より任意の1曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

### \*コントラバス

(第1日) 任意のソナタの第1楽章及び第2楽章または協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。

2 J. Hrabě 86 ETUDES for STRING BASS Book1 より 25番を演奏すること。

第一次試験

(Carl Fischer版を使用すること。フィンガリング、ダイナミックスは自由とする。)

(a)

Exercise (a) consists of two staves of music in G major (one sharp) and common time. The first staff begins with a treble clef and contains two measures of eighth-note runs, each with a slur. The second staff begins with a bass clef and contains two measures of eighth-note runs, also with slurs. The piece concludes with a double bar line.

(b)

Exercise (b) consists of two staves of music in G major (one sharp) and common time. The first staff begins with a treble clef and contains two measures of eighth-note runs with slurs. The second staff begins with a bass clef and contains two measures of eighth-note runs with slurs. The piece concludes with a double bar line.

(c)

Exercise (c) consists of two staves of music in G major (one sharp) and common time. The first staff begins with a treble clef and contains two measures of eighth-note runs with slurs. The second staff begins with a bass clef and contains two measures of eighth-note runs with slurs. The piece concludes with a double bar line.

(d)

Exercise (d) consists of four staves of music in G major (one sharp) and common time. Each staff begins with a treble clef and contains two measures of eighth-note runs with slurs. The piece concludes with a double bar line.